

ベトナムのダム水質を効率的かつ経済的に改善

国際協力機構（JICA）は、2月5日、大阪府大阪市の株式会社丸島アクアシステム（以下丸島アクアシステム）と「ベトナム国におけるダム湖の水質改善装置の普及・実証事業」にかかる業務委託契約を締結しました。本契約は、わが国の中小企業を対象に、JICA が本年度より開始した「民間提案型普及・実証事業」として実施されるものです。

ベトナムでは近年の急速な経済発展にともない、近年では毎年13基程度のダムが新設されており、大型ダムはこれまでに619基建設されています。しかしながら、ダム湖での水環境対策が不十分なため、水質悪化（主に貧酸素化）によりダム湖やその下流河川域において水質問題が発生し、飲料水や農業用水、漁業活動への悪影響が顕在化しています。人々の生活にとってダム湖の水質問題は喫緊の課題であり、効率的な水質改善の方策として水中の酸素濃度を適切に保つための曝気装置を設置することが検討されています。

本事業では、日本国内で多数の実績がある丸島アクアシステムの深層曝気装置を導入し、ダム湖深層部の貧酸素化を集中的に効率よく改善します。同社の製品は、構成する機器が少ないため故障が少なく、据付も容易でメンテナンスフリーという特徴があります。また、同社は、昨年度「平成24年度政府開発援助海外経済協力事業委託費」（案件化調査）にて、ベトナムのビンフック（Vin Phuc）省の複数のダム湖の貧酸素化や水環境、水利用の実態調査を実施しました。今回はその結果を踏まえながら、同省スオイサイダムにおいて、ダム湖の貧酸素化を効率的かつ経済的に改善し、下流河川への影響を抑制します。

「民間提案型普及・実証事業」は、我が国の中小企業等の製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、その現地での適合性を高め、普及を図ることを目的としたものです。JICAは、開発途上国の開発ニーズや課題の解決に資する技術を有する丸島アクアシステムと連携し、同社の技術の普及を通じ、効率的かつ経済的開発途上国の課題解決に貢献していきます。

